

2025年3月期第2四半期（中間期） 決算補足説明資料



（証券コード：6643 東証スタンダード市場）



さあ 挑もう つくろう かえていこう

**当社は、2025年3月12日
で創立100周年を迎えます。**



1. 業績の概況	P. 1
2. 利益の増減要因	P. 4
3. キャッシュ・フローの状況	P. 5
4. 財務の状況	P. 6
5. セグメント別売上高の概況	P. 8
6. セグメント事業の概況	P. 9
7. 連結業績予想 / 配当予想	P. 15
8. SDGsに関する取り組み	P. 16
9. 会社概要	P. 18

1. 業績の概況

■ 連結損益計算書

- ・ 配電盤及びシステム機器の売上は減少したものの、電力会社向け配電自動化用子局や配電用自動開閉器の需要が好調に推移したことにより、売上は増加。
- ・ 売上高の増加や、一部製品において価格改定を実施したことなどにより、営業利益が増加。

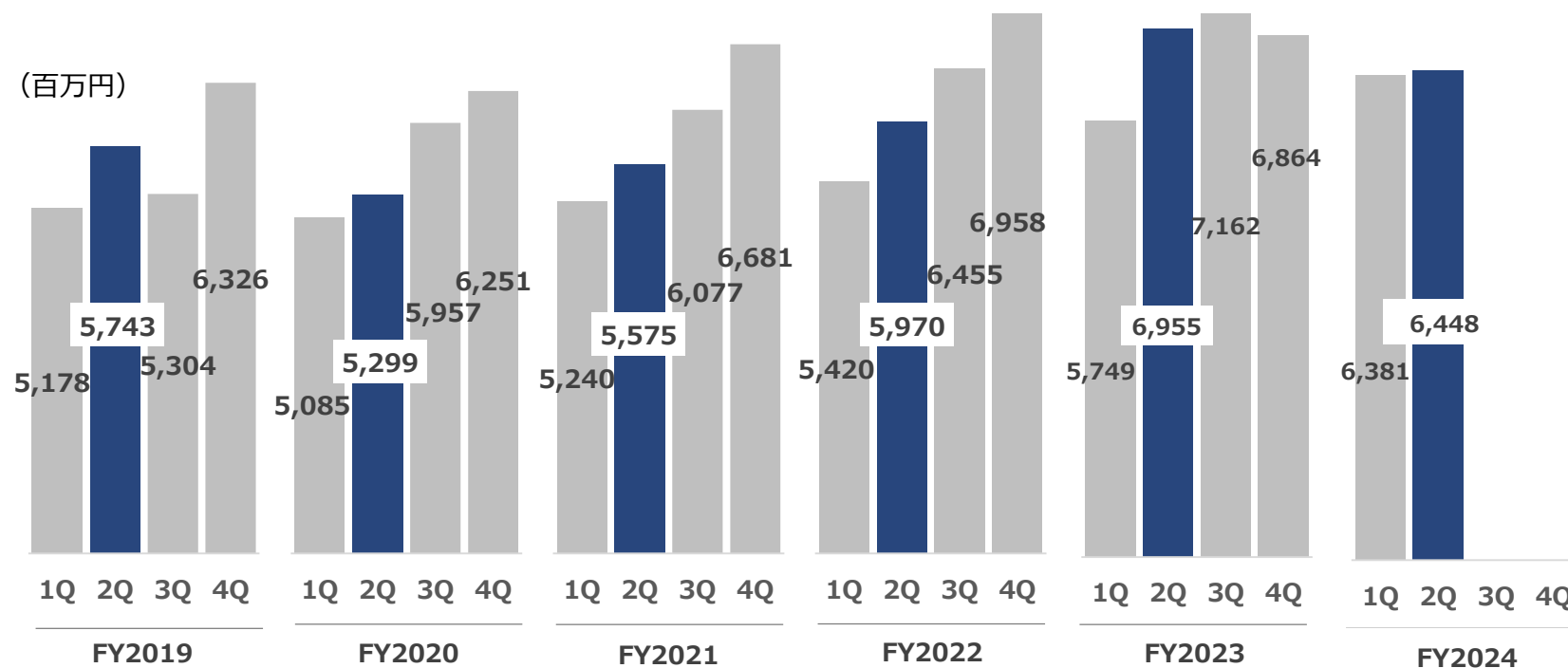
(単位：百万円)

	FY'23Q2	FY'24Q2	増減率
売上高	12,704	12,829	+ 1.0%
営業利益	840	1,315	+ 56.6%
経常利益	1,068	1,365	+ 27.8%
親会社株主に帰属する中間純利益	706	954	+ 35.1%

1. 業績の概況

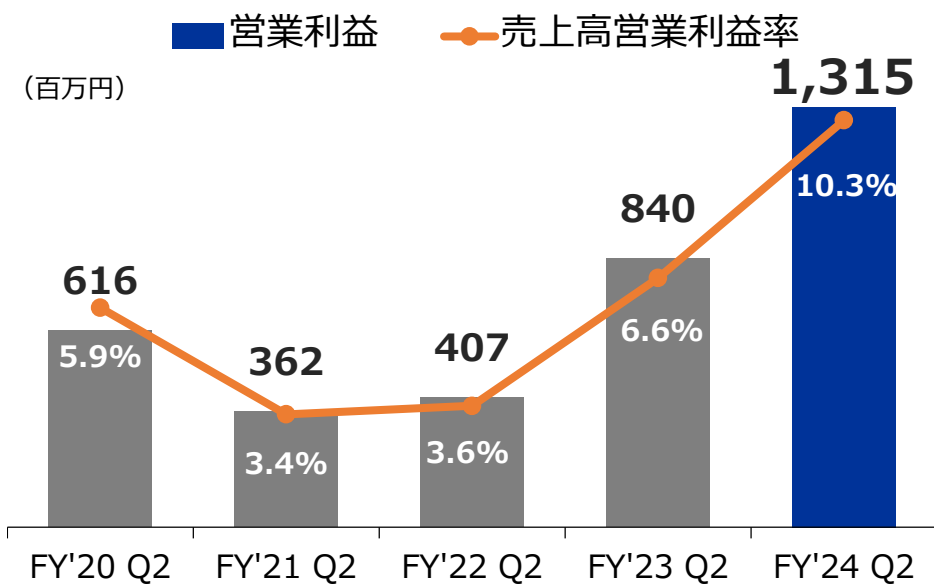
■ 売上高の推移

- ・ 電力会社向け配電自動化用子局や配電用自動開閉器の需要が好調に推移。
- ・ プラスチック成形加工事業や金属加工事業は減収。

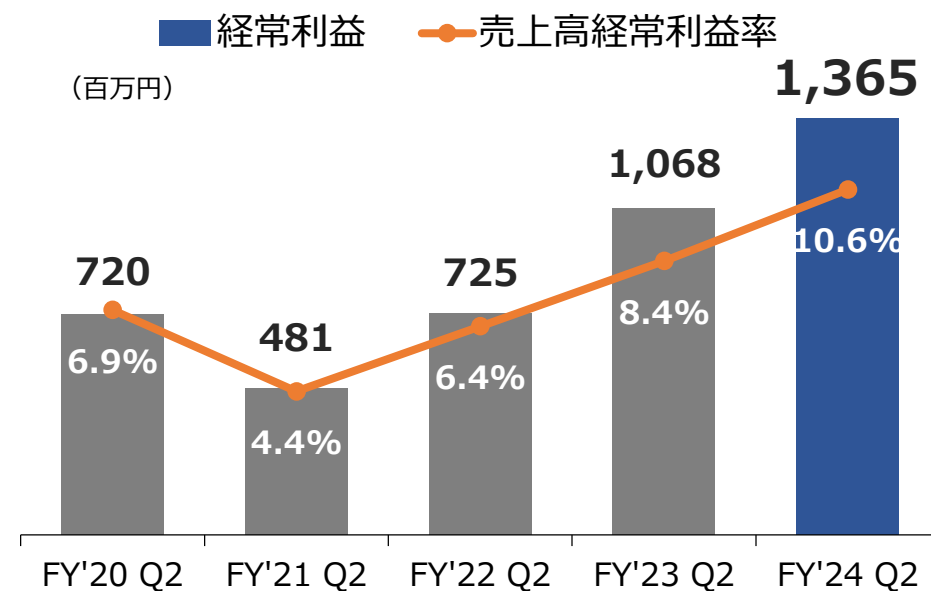


1. 業績の概況

■ 営業利益の推移



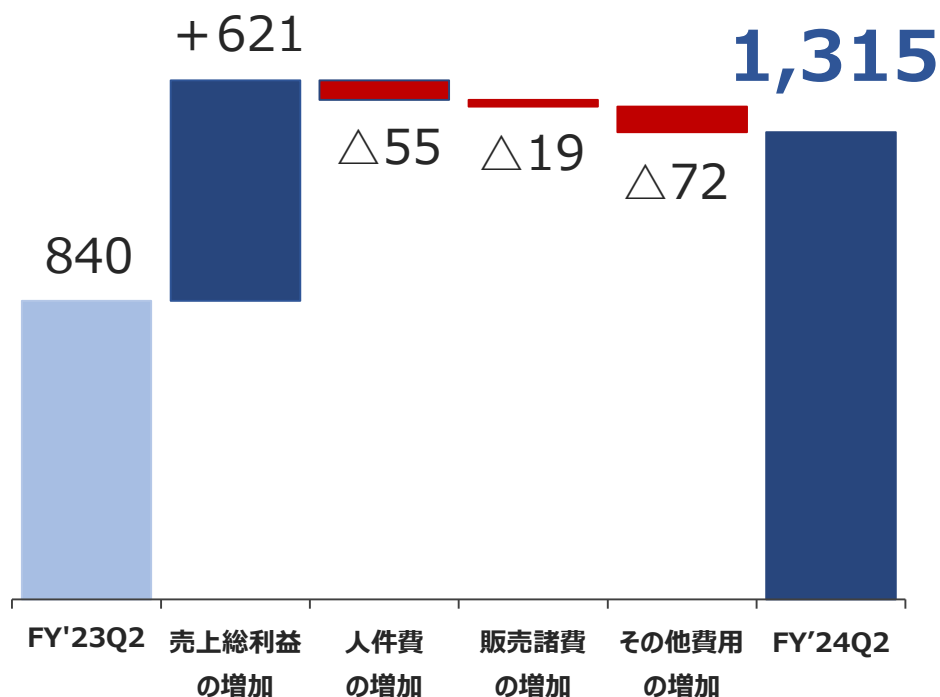
■ 経常利益の推移



2. 利益の増減要因

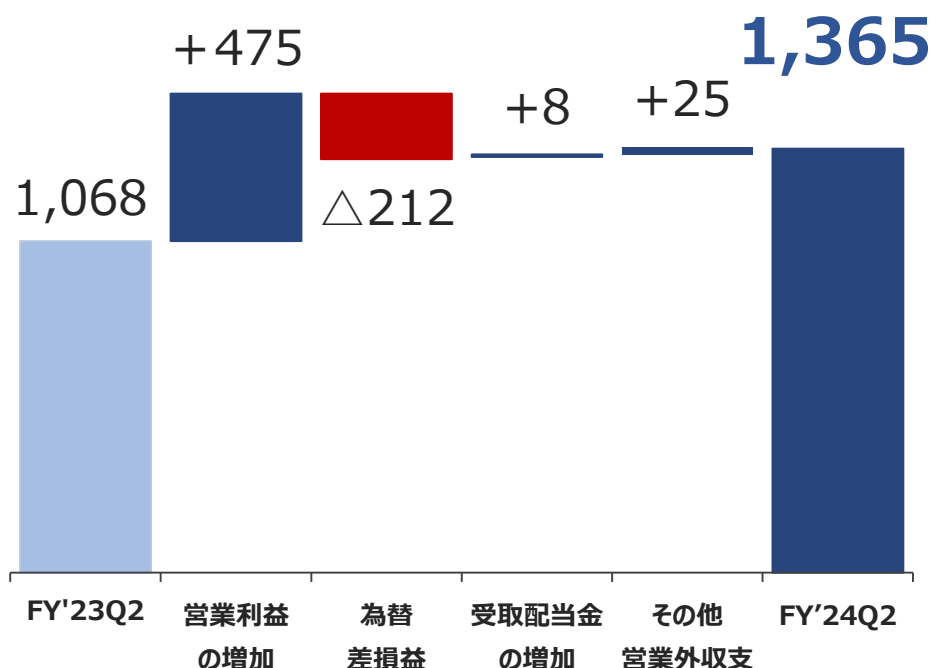
■ 営業利益

対前年同期 **475**百万円増益



■ 経常利益

対前年同期 **296**百万円増益



3. キャッシュ・フローの状況

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	FY'23Q2	FY'24Q2	増減額	
営業活動による キャッシュ・フロー	△101	963	+1,065	税引前当期純利益の増加 売上債権の減少
投資活動による キャッシュ・フロー	△303	△ 973	△670	設備投資額の増加
財務活動による キャッシュ・フロー	△235	△ 501	△265	自己株式の取得
現金及び現金同等物 の増減額	△504	△ 483	+21	
現金及び現金同等物 の期末残高	6,072	6,407	+334	

4. 財務の状況

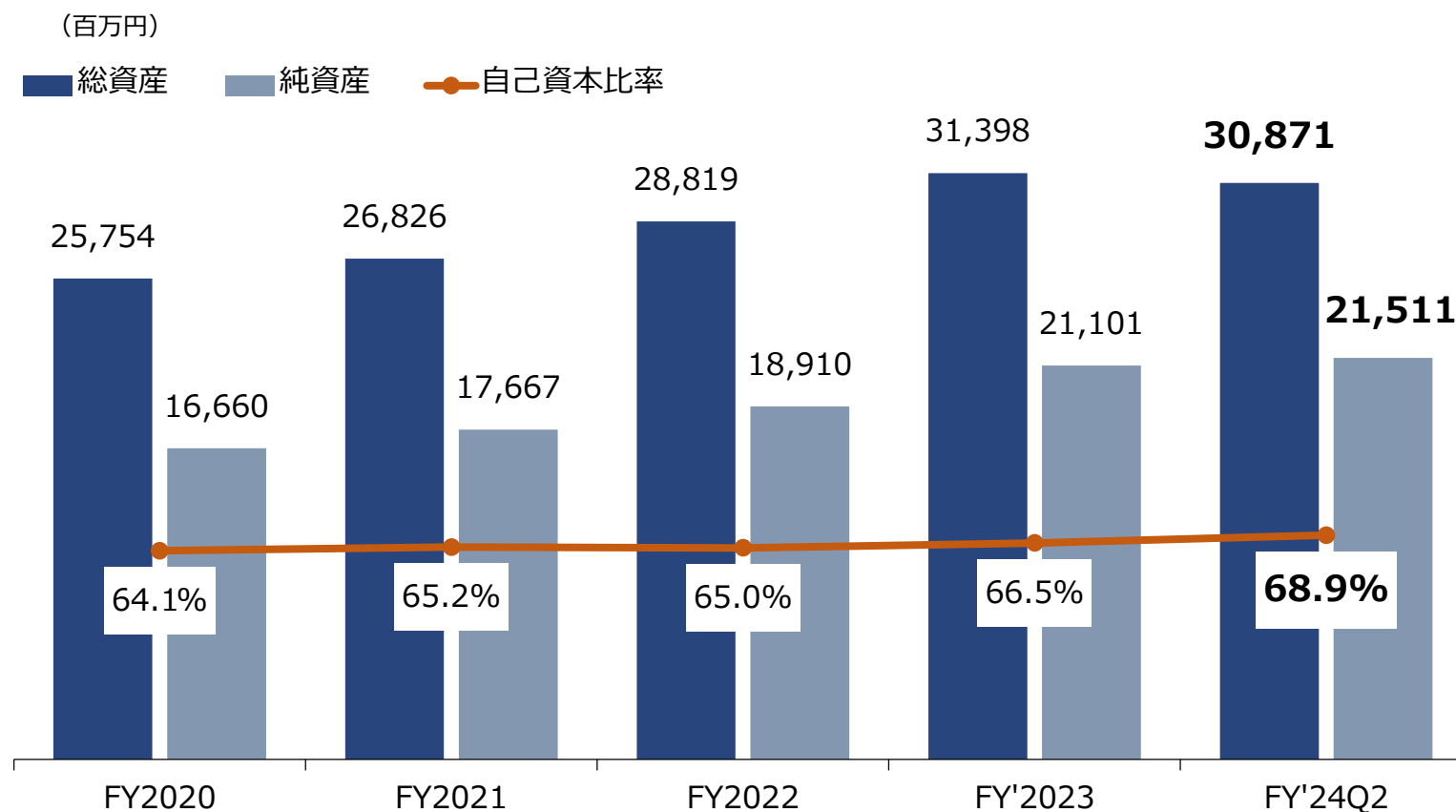
■ 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	FY2023	FY'24Q2	増減額	
流動資産	20,767	19,834	△933	← 売上債権の減少
固定資産	10,631	11,036	+405	← ソフトウェアの増加 建設仮勘定の増加
資産合計	31,398	30,871	△527	
流動負債	7,371	6,386	△985	← 仕入債務の減少
固定負債	2,925	2,972	+47	
負債合計	10,297	9,359	△938	
純資産合計	21,101	21,511	+410	← 利益剰余金の増加 自己株式の増加

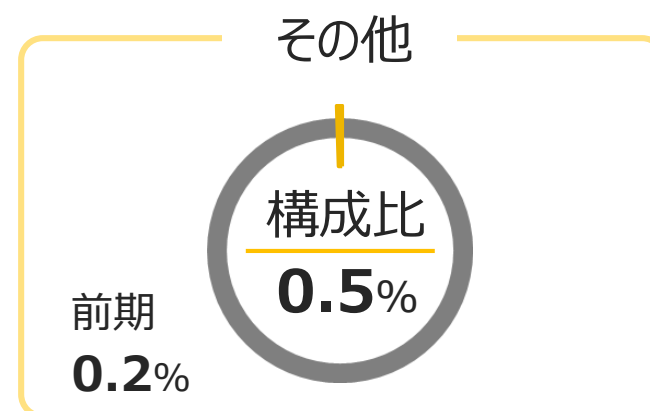
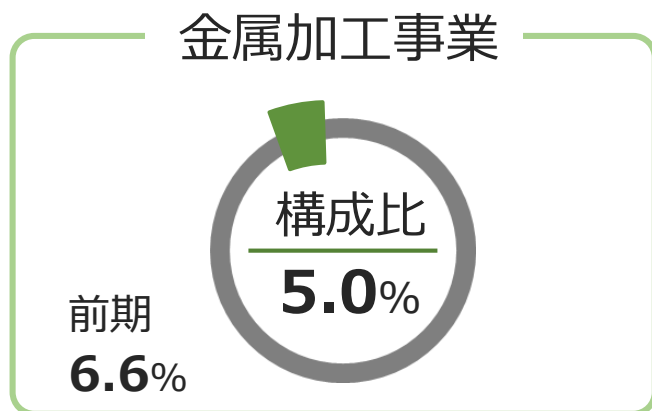
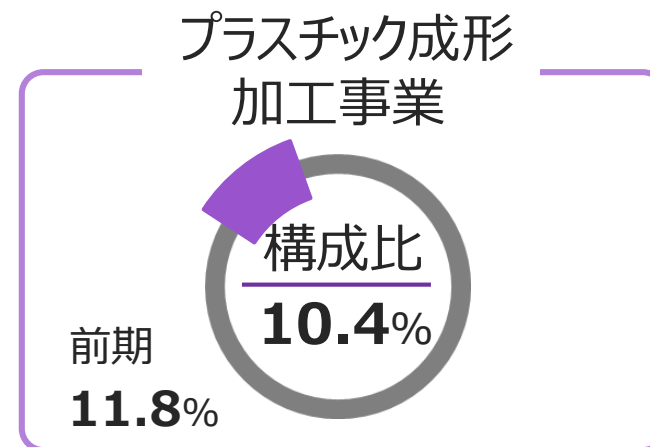
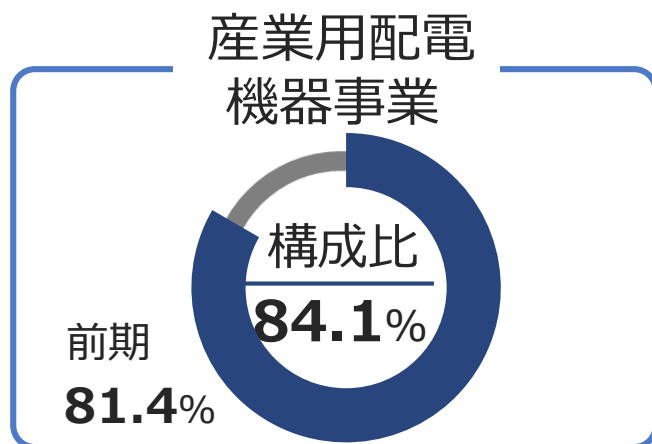
4. 財務の状況

■ 総資産・純資産の推移



5. セグメント別売上高の概況

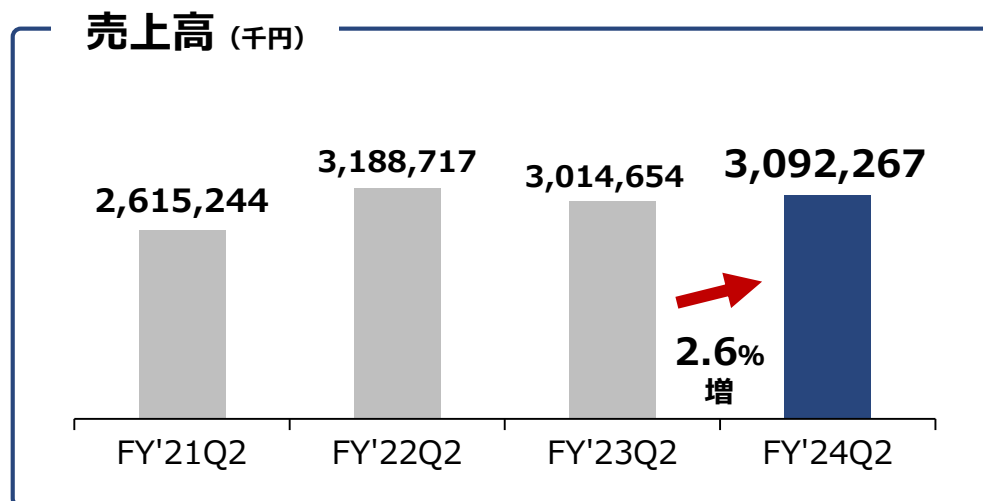
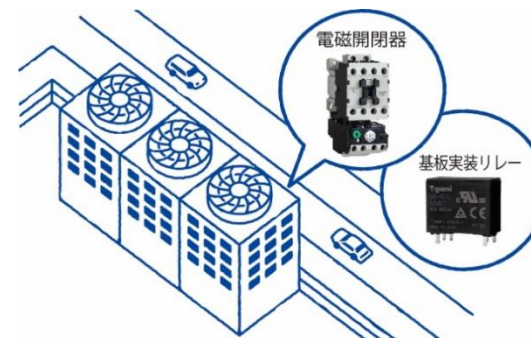
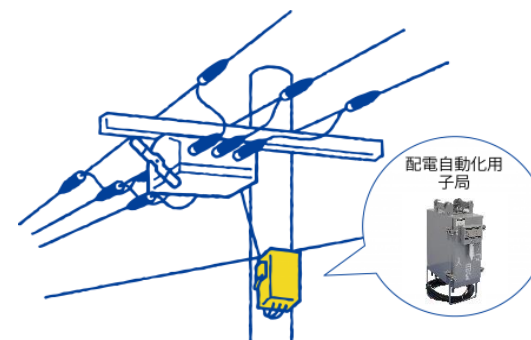
■ セグメント別の売上構成



6. セグメント事業の概況

■ 産業用配電機器事業（電子制御器）

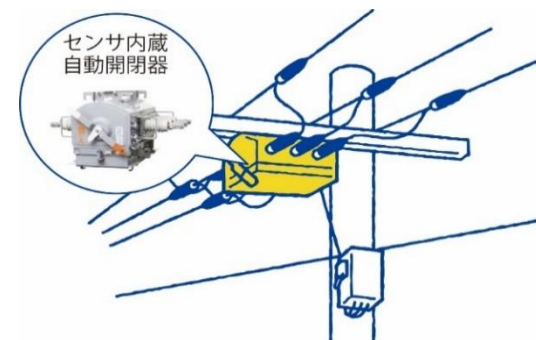
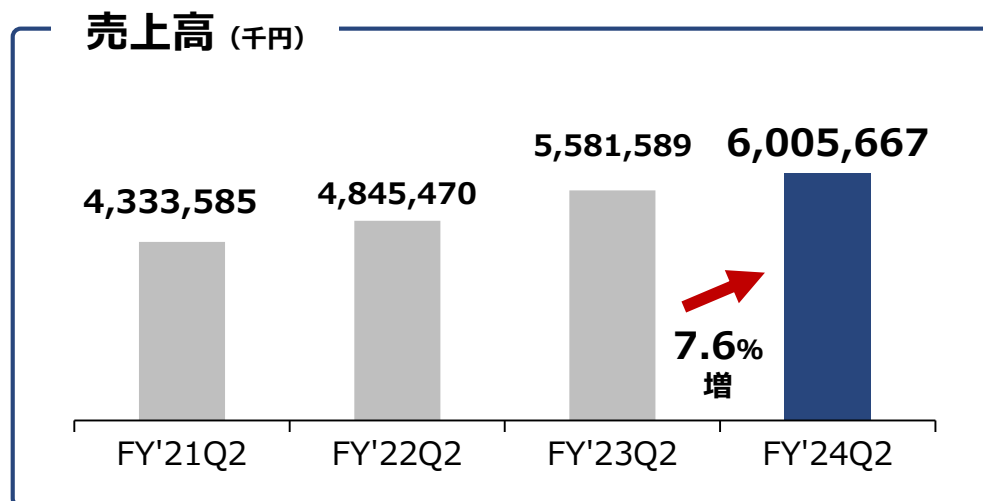
- 電磁開閉器は、取引先各社において在庫調整が行われたことにより**減収**
- 配電自動化用子局は、一部の電力会社において次世代型への更新、配電設備強化の動きが継続したことで**増収**



6. セグメント事業の概況

■ 産業用配電機器事業（配電用自動開閉器）

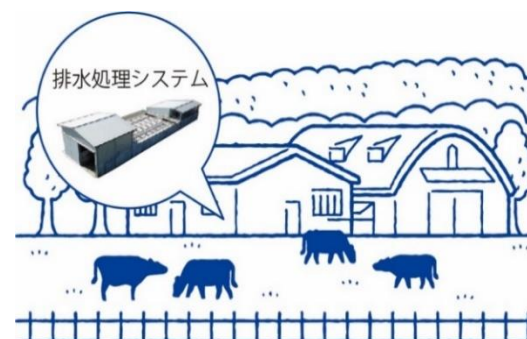
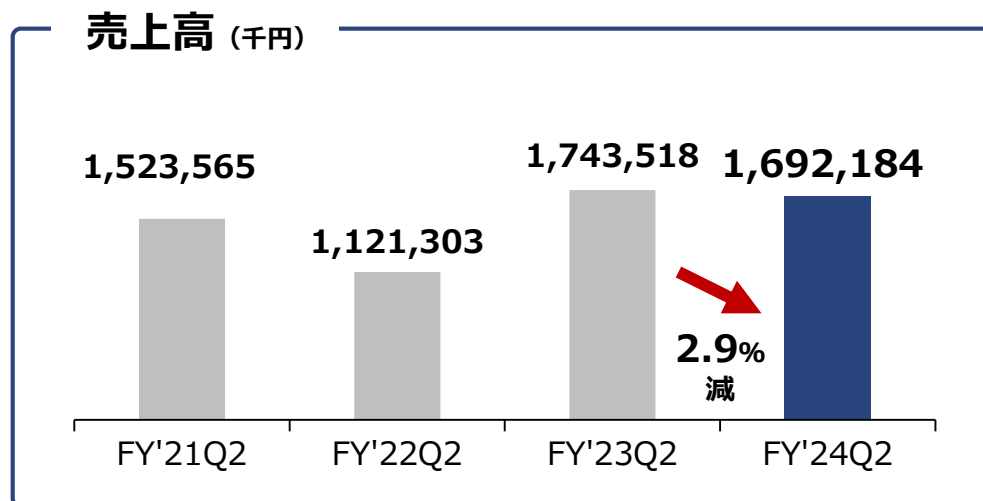
- 柱上用開閉器は、需要の持続的回復や、一部製品の価格改定により**増収**
- 配電用自動開閉器は、次世代型への更新需要の拡大や配電設備の取付工事の推進などにより**増収**



6. セグメント事業の概況

■ 産業用配電機器事業（配電盤及びシステム機器）

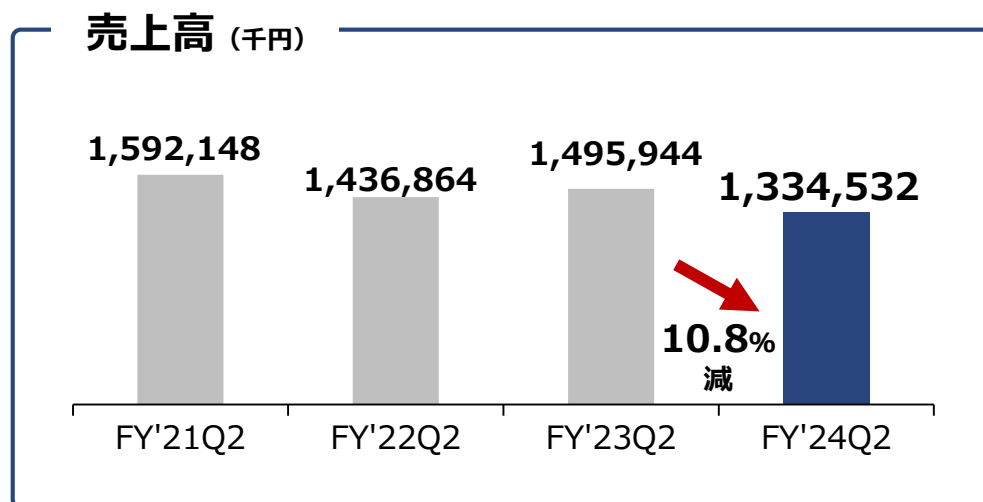
- 配電盤は、設備更新案件や定期メンテナンス等の需要が増加したことにより**増収**
- システム機器は、排水処理施設に関する工事案件数の減少により**減収**



6. セグメント事業の概況

■ プラスチック成形加工事業

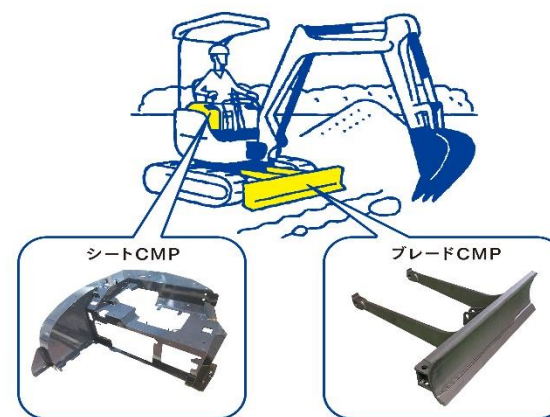
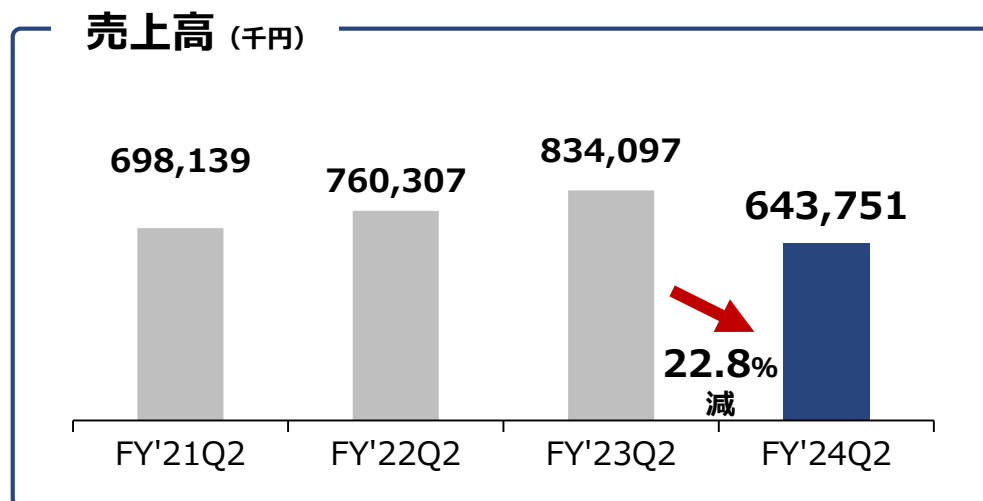
- ・ 自動車業界の需要が回復しなかったことにより**減収**



6. セグメント事業の概況

■ 金属加工事業

- ・ 産業用機械向け部品の需要が減少したことにより**減収**

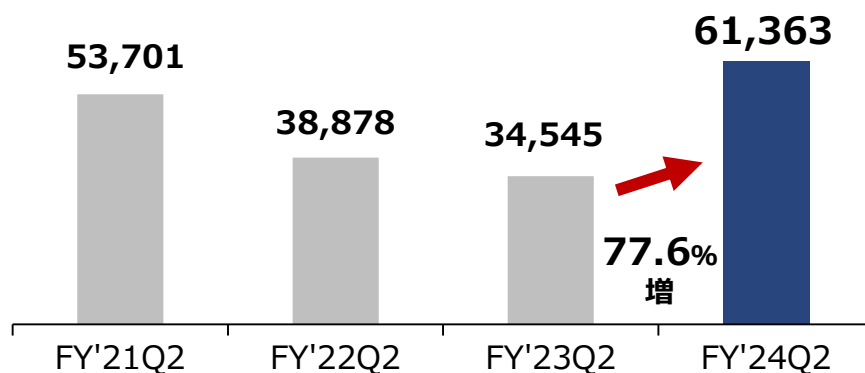


6. セグメント事業の概況

■ その他

- プラスチック成形加工事業に付随する金型加工やソフトウェア開発等は、需要が増加したことにより**増収**

売上高 (千円)



(金型加工)



(統合基幹業務システム)

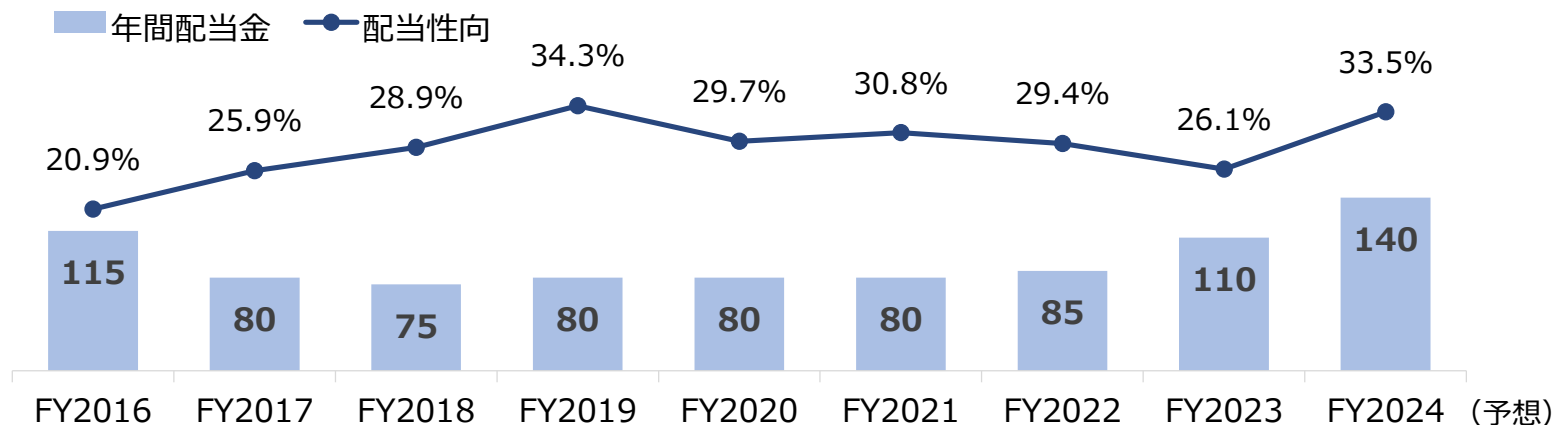
7. 連結業績予想 / 配当予想

直近の予想（11月1日に上方修正）

（単位：百万円）

	2024年3月期	2024年3月期（予想）	増減率
売上高	26,731	26,800	+0.3%
営業利益	2,694	2,700	+0.2%
経常利益	3,029	2,850	△5.9%
親会社株主に帰属する当期純利益	2,090	2,000	△4.3%

配当予想は11月1日に修正（中間+10円、期末+10円の増配）



8. SDGsに関する取り組み

「社会を、地球を、未来を豊かに。」

- ・ 多様化するエネルギーの安定供給、環境保全への取り組み、国内外へのインフラ整備を通じて社会に役立つ企業を目指しております。

SDGs目標	当社の取り組み
	働きやすい環境と自律した「人財」の育成に努めるため、研修の企画立案を行う専門部門である人財開発センターを設置し、社内はもちろん社外の高校生等の技能教育も積極的に取り組んでおります。 また、ミャンマー人留学生に対する奨学金制度を導入し、日本での質の高い教育の提供を支援しております。
	企業の環境への要望が日々高まるなか、当社は1999年にいち早く環境事業部門を発足し、環境保全に取り組んでおります。上下水道システムの電気工事等のインフラ整備や、畜産関係及び食品工場などから出る排水を脱色、臭気低減して殺菌するシステムは環境事業部門の主力事業として展開しております。



(支援をしているミャンマー人留学生)



(排水処理システム)

8. SDGsに関する取り組み

SDGs目標	当社の取り組み
7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに 	環境負荷の低い再生可能エネルギーの需要が高まるなか、太陽光発電システムの施工やメンテナンスの際に使用する太陽光発電保守点検機器（PVドクターシリーズ）を開発し、提供しております。 また、メタン発酵によるバイオマス発電を行う際に発生する消化液の排水処理システムを開発し、バイオマス発電を展開するうえでの一翼を担っております。 社内においても、フォークリフトを全てバッテリー式に変えるなど環境負荷の低減に取り組んでおります。
9 産業と技術革新の 基盤をつくる 	日本国内で培った品質や技術を生かし、海外におけるインフラ整備にも力を注いでおり、日本と比べて電力需要が高いアジアの国々の電力網の構築に貢献してまいります。 また、グループ全体で様々な分野における開発を進めており、事故停電情報や動作停止情報をいち早く知ることができる「OUD遠隔監視サービス」も提供しております。
11 住み続けられる まちづくりを 	持続可能な輸送システムの一翼を担っている高速道路の保全工事などのインフラ整備事業を実施しております。 高速道路上での災害対応にも取り組んでおり、過去には九州地方で発生した集中豪雨に伴う高速道路上での緊急災害対応が評価され、西日本高速道路ファシリティーズ株式会社様より感謝状を頂きました。
12 つくる責任 つかう責任 	当社の生産方式である「TPW（Togami group Production Way）」において「ムダの廃除」を掲げ、「造りすぎのムダ」、「不良・手直しのムダ」を廃除し、製造過程で排出するムダな資源を低減しております。 また、開発段階から製造過程における化学物質の使用を見直すなど、グループ全体での環境負荷低減に取り組んでおります。



（PVドクターシリーズ）



（OUD通信端末）



（災害対応が評価され、頂いた感謝状）



（TPWポスター）

9. 会社概要

商 号	株式会社 戸上電機製作所
所在地	佐賀市大財北町1番1号
代表者	代表取締役社長 戸上信一
設 立	1925年3月12日
資本金	289,959万円
従業員数	1,108名（連結） 454名（単体）
上場証券取引所	東京証券取引所（スタンダード市場）
決算期	3月
証券コード	6643
URL	https://www.togami-elec.co.jp/



本社 上空写真



本社 社屋

本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、現時点において入手可能な情報に基づき判断しており、リスクや不確定要素を含んでおります。

従いまして、見通しの達成を保証するものではありません。事業環境の変化や当社の内部要因により実際の業績が大きく異なる可能性があります。

投資判断については、本資料の業績見通しのみに依拠しないようお願いいたします。